

感じています。

サムラングの帰り際、村の人達がギター片手に私たちへの即興の歌を披露してくれました。8月にお祭りがあると聞き、その時もう1度来るね!と約束して帰ってきました。

一緒に旅したピラアンの子供たちも本当にみんないい子で、少ないながらもこうして高校、大学へと進学する子供たちが増えることによって、民族の暮らしがより豊かになることになれば・・・としみじみ思いました。

今回、私の同行を快く承諾して下さい、すばらしい体験、楽しい時間をプレゼントして下さいました山崎さんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

.....  
No.6でもご紹介しましたが、森田さんはこのピラアン訪問後、正会員、ハイスクール生支援会員になって下さいました。チボリの経験をピラアンでも生かして下さいと期待しています。

次の文は、このところ続けてハンセン病(らい病)療養所の方からご寄付をいただいた関係で、その方々と交流のある会員の鎌田さんをお願いして書いていただきました。患者さん(正確にはすでに菌陰性ですから元患者さん)のお一人で、南方の山にぜひ植林をとご寄付下さった北野さんのお手紙も続けて紹介させていただきます。

.....

.. 横 須 賀 か ら ..

神奈川県 鎌田宏子 8/13

「愛する」という映画が9月下旬に公開されるそうだ。原作は遠藤周作さんの「わたしが・棄てた・女」。大学病院でハンセン病と診断された女性が療養所へ送られる。しかし、誤診とわかり療養所を出ようとするが、なぜかそこにとどまり一生を送る。小説だが実在のモデルもいたとか。昭和23年の社会を舞台にしたものであり、ハンセン病が重要な核となっている。今日に通じる映画になり得るかどうか、熊井啓監督が懸念した点だそうだが、新生日活第1弾の記念映画ということで特別の思い入れがあるようだ。

私のハンセン病とのかかわりは、30年以上前の学生時代に始まったものである。ハンセン病で失明された方たちに点訳本や録音テープを送り、春、夏の休みにはいくつかの療園訪問をしていた点訳サークルに入ってからである。大学祭では毎年「らいを正しく理解しましょう」というテーマに取り組んでいた。

ハンセン病は現代では多くの病気の一つに過ぎず、むしろ完治しやすい病である。しかし、日本では長年患者を強制的に隔離する政策がとられていた。それゆえ、病気本来の苦痛に加え、家庭とも社会ともきずなを断たれるという重荷を負わされ、多くの人達は病気が治っても何十年も療園での生活を余儀なくされてきた。そして、皆さんもう高齢である。まだ多くの問題が残されたままではあるが、昨年「らい予防法」が廃止されたことで、巨大な氷の壁がほんの少しずつ溶け出したとあっていいだろう。

瀬戸内海の長島には愛生園、光明園の二つの療園がある。近年、岡山県の虫明町との間に橋がかかり、園内の夏祭りには近隣の町内の人達も参加するそうだ。首都圏の療園のMさんは、「徹子の部屋」というテレビ番組に出演されるなど、マスコミを通じてこの病と偏見について訴えている。また、差別やいじめに苦しむ子供の励みになればと、「いじめ」がテーマの会に積極的に参加されご自分の体験を語る方もいる。

ピラアン族の状況に関心を寄せて下さるハンセン病療園の方々がいらっしゃるのは、それぞれの社会での少数派としての苦しみの体験を共有出来るからではないだろうか。

私はいつもピラアン通信が届くとしばしミンダナオの子供たちに思いを馳せる。この子供たちがきっとピラアンの未来を明るくしてくれると期待している。

.. H A N D S の 皆 様 へ ..

静岡県 北野実 7/17

ピラアン族の医療を支える会活動、皆様ご苦勞様でございます。

貧しい国の子供達が勉強できるようになればよいと思います。また、木のない島に一本でも早く苗木を植え緑が戻ればと思います。わずかですが向こう十ヶ年分としてお送りさせて頂きました。よろしくご利用くだ